

地域みんなの宝物

旧鮎川小学校・由利本荘市



[所在地] 由利本荘市町村鳴瀬台65
※イベント開催時以外の見学は外観のみ
鮎の風HP <http://home.b03.itscom.net/medisaz1/>

由利高原鉄道で羽後本荘駅から矢島行きの列車に乗り3駅目、鮎川駅が近づく。右側の車窓に学校のグラウンドが広がり、その向こうに美しい木造校舎が見えてくる。平屋建てながら農村部の学校としては比較的大きく、端正な姿が印象的だ。

旧由利町の鮎川小学校。遠目には現役の小学校にも見えるが、ご多分に漏れず過疎化少子化のため平成16年に閉校になっている。しかしこれだけの立派で美しい木造校舎だと、役目を終えた建物だからとそのまま朽ちらせてしまおうのはあまりにもつたいなく、また、多くの地域の大人たちもかつては通った学びやであるとするれば、愛着は並々ならぬものがあつたはず。この校舎は、地元の旧鮎川村の村有林の木材を切り出して建てられている。生まれたときから地域の宝物のような存在であつただろう。

そんなことから、平成20年には、この木造校舎に思いを寄せる有志によって「鮎の風実行委員会」という組織が結成され、交流会やイベントを開きながら校舎の保存利活用の模索を続けている。閉校から10年が過ぎた今になつても一見現役の小学校のように見えるのは、会のメンバーや地元老人クラブ、婦人会などの面々が校庭の木の剪定や花壇の植え替えなどに労を惜しまず、校舎周辺の美化に努めていることも大きい。廃校になつた後までも地元の人たちに愛されている幸せな木造校舎だ。

窓枠がアルミサッシになるなど後年手を加えられたところもあるが、建設当時の姿がほぼそのまま維持されてきた全国的にも稀な存在として、平成24年には国登録有形文化財にも指定された。

かつて子どもたちのさざめきがあつた木造校舎が、これからは地域内外の人たちの交流の場として笑顔のあふれる場所になつたら、どんなに素敵だろう。

(文/己戸春策・イラスト/堀千里)